

(様式4)

都道府県名	山口県	番号	35
学校名	山口県宇部市立万倉小学校		

1. 研究の概要

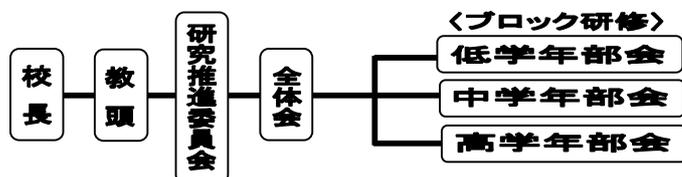
(1) 研究主題

自分の考えをしっかりともち、生き生きと自己表現する子どもの育成
～自分の思いや考えを確かに伝え、互いに高め合う国語科指導の工夫～

(2) 研究のねらい

「互いに高め合う」とは、一人ひとりが話す前に考えていたことが、お互いの対話を通して修正され、より強固なものとなり、広がったり深まったりしていく状態をさすと考える。子どもの思考を活発にするために、授業の中で話し合う必然性をもたせる課題作りをしたり、発問を工夫したりすることは互いに高め合う学びにつながると考える。また、「対話力」を身につけることにより話し合う力が育ち、互いに高め合うことができると考える。そして、学校生活全般を通して、子どもたちを取り巻く言語環境を整えることにより、一人ひとりの学びを支え、生き生きと自己表現する子どもを育成することができると考える。

(3) 研究組織



(4) 研究の実際

〈平成19年度の取組〉

① 対話力を身につけさせるために

ア自分の考えを確かなものにするために「書く活動」を取り入れた。(ワークシートの工夫)
イ学年に応じた話型や聞き方の指導を推進した。

ウ話す力、聞く力をつけるための場の設定の工夫をした。(スピーチ、フリートーク)

② 「話すこと・聞くこと」の必要性を実感できるような授業作り

ア授業の中で互いの意見を出し合い、練り合う場の設定をした。

イ複数の考えが生じる発問や話し合いの形態の工夫、発表する必然性や課題解決への目的意識をもたせる活動の場を設定した。

ウ授業評価・・・授業の終わりに相互評価や自己評価をした。

③ 言語環境の整備

ア読書活動の推進・・・全校朝読書や読み聞かせなどの読書活動の積極的展開

イ表現の場の設定・・・全校朝会での音読発表、全校音読「今月の詩」

参観授業や学校行事などの機会を利用した、保護者や地域の方に向けた日頃の実践の発表

ウ言葉に関心をもたせるための掲示物の工夫

④ 職員研修・・・KJ法を活用した研究協議

〈平成20年度の取組〉

① 国語科の授業実践研究で

ア自分の思いや考えを確かに伝えるために自分の考えをしっかりとらせるための工夫。

・一人学びの場の設定～書く活動を取り入れた指導・辞書の携帯～

(ノートへの視写、書き込み、ワークシートの活用)

・学年に応じた取り組みの工夫(語り、ディベート)

イ互いに高め合う力をつける工夫(授業の中で意見を出し合い、練り合う場の設定～発問の工夫、話し合いの形態の工夫、振り返りの場の設定)

② 話す力をつけるための取組・・・話す力をつけるための場の設定(スピーチ、フリートーク)

③ 言語環境の整備

2. 成果

- (1) 自分の考えをもたせるために一人学びの時間を設定し「書く活動」を取り入れたことは効果的であり、自分の考えを発言につなぐことができた。また、児童が書き込んだものに教師が朱書きを入れたり、コメントを入れたりして価値づけすることにより、子どもたちが自信をもち意欲的に学習に取り組んだり、発表したりする姿が見られた。
- (2) 2年生以上の児童は、国語辞典を身近に置きどの教科でも利用することにより、辞典を活用することが身に付き語彙が増えた。また、図書資料や具体物など一人学びができる環境を整えることで、子どもたちが興味・関心をもって学習に取り組むことができた。
- (3) 全校朝会での音読発表、各学級でのスピーチ・フリートーク、他学年との交流等様々な表現の場を設定することは、子どもたちに刺激を与え、意欲を向上させるのに効果的だった。また、それらを通して子どもたちの表現を鍛え、自信をもたせることができた。

3. 成果についての検証

- (1) 国語科の授業において一人学びの時間を設定し、書く活動を取り入れたことにより自分の考えをもたせることができた。子どもの思考に沿って書き込みができるようなワークシートを工夫したり考えをまとめさせるための十分な時間を確保したりすることが大切である。
- (2) 体験を重視し表現の場を数多く設定したことは、児童の表現の向上を図る上で効果的だった。児童は体験を積むことで場の雰囲気慣れ、堂々と自分の思いや考えを表現できるようになった。
- (3) 児童の意識の変容(「国語の学習について」のアンケートより)

国語の勉強は好きですか。	(H19) 3. 9	(H20) 4
--------------	------------	---------

(5:とても好き 4:どちらかというと好き 2:あまり好きではない 1:きらい)

4. 課題とその改善

みんなの前で話すことは好きですか。	(H19) 2. 9	(H20) 2. 5
-------------------	------------	------------

(5:とても好き 4:どちらかというと好き 2:あまり好きではない 1:きらい)

- (1) 自分の考えをしっかりとっていても、発表する時に「自信がない」「恥ずかしい」という理由で声が小さく言葉がはっきり聞こえない児童が多い。特に高学年になるほど目標が高くなって、自分の考えを発表することに消極的になる傾向が強い。互いに高め合うためには積極的に意見を出し合えるようにしたい。そのためにクラスの中で互いの意見を尊重し認め合う人間関係づくりが必要である。
- (2) 国語の授業において個人差が大きいため、児童一人ひとりの実態に即した支援・援助の方法の研究が必要である。
- (3) 教師がしっかり教材研究をすることが重要である。発問の工夫や練り合う場の設定などを考えながら授業を仕組むことで、児童は意欲的に授業に参加し活動することができるようになる。
- (4) よりよい言語環境をつくるためには、教師自身が言語に敏感であることが大切である。「実のあることば」をしっかりと取り上げ、全体に広めていくことが大切である。